

2020年4月13日

大林組が、DX 推進の一環として Board を導入

情報活用強化、意思決定の迅速化へのチャレンジに Board を選択

経営管理・BIソリューションを提供する Board Japan 株式会社（本社：東京都千代田区、取締役社長：篠原史信、以下「Board」）は、株式会社大林組（本社：東京都港区、社長：蓮輪賢治）が、海外工事の売上・利益管理の迅速化を目的に「Board」を導入したことを発表します。

【導入の背景】

大林組グループは、持続的な社会の実現に向けて「最高水準の技術力と生産性を備えたリーディングカンパニー+多様な収益源を創りながら進化する企業グループ」を「目指す将来像」と位置づけ、その実現のために、次世代技術開発や継続的な成長投資による競争力の強化を図っています。特に海外事業においては情報活用強化・ビジネスプロセスの変革・意思決定を迅速化、収益源の拡大を課題にしていました。これらのソリューションとして、グローバル企業での採用実績の多い Board が採用されました。

【Board の特徴】

「Board」は経営管理（EPM）と情報分析・シミュレーション（BI）をワンストップで実現するプラットフォームソリューションです。Board は既存システムと連携し、実績データの可視化から課題・傾向をつかみ取り、未来の営業計画・財務計画を、組織階層の上下双方向で立案することにより、実績と見通し数字を組み合わせたフォーキャストを実現する事ができます。経営環境の変化に対する財務・非財務 KPI の変更もノンプログラミングで対応できるため分析の内製化、報告の迅速化に対応することができます。

<Board の主要機能>

- 経営管理機能（EPM）
- 情報分析機能（BI）
- 予測分析機能
- ワークフロー

<Board の主な適用領域>

トップダウン予算やボトムアップ予算の導入から、それらの世代管理（バージョン管理）、シナリオ別予実分析、組織配賦やセグメント配賦、予算明細の管理や実績との突合、為替シミュレーションや、連結会計など、EPM の伝統的な要件を実現します。また、ERP をはじめとする主要な業務アプリケーションへの直接接続、またデータのライトバックもクラウドで提供します。

- 予算管理、PL 計画、BS 計画、キャッシュフロー計画
- 販売計画、商品計画、在庫・仕入れマーチャンダイジング計画
- SCM レポートニング、S&OP
- 働き方改革、人財計画、タレントマネジメント
- プロジェクト管理
- 統合事業計画、デジタルファイナンス、デジタルトランスフォーメーション、など

Board の詳細はこちら（<https://www.Board.com/jp>）をご覧ください。

【大林組について】

株式会社大林組、1892 年創業の土木建築を行うスーパーゼネコン。連結売上高 20,396 億円。営業利益 1,554 億円。従業員数 14,739 人。海外拠点 16 か国。グループ会社 117 社。地球にやさしいリーディングカンパニーとして、サステナビリティ、ESG・SDGs への取り組みの推進、オープンイノベーションの手法を活用した次世代生産システムの構築を推進している。

【Board について】

Board International は、1994 年に設立されたスイスと米国ボストンに本社を置くソフトウェア企業です。Board Japan 株式会社は Board International の子会社です。企業の意思決定を支援する経営管理（EPM）、情報分析（BI）及び予測分析アプリケーションを一つのプラットフォームで提供する Board は、業種や業界を問わず世界で 100 か国以上、3,000 社以上の企業に導入されています。Board の経営管理プラットフォームを活用することで、正確で包括的な事業データを一元的に把握し、経営戦略からオペレーションの実行まで企業全体のパフォーマンスを管理することが可能です。Coca-Cola、H&M、Puma、三菱電機、NEC、リコー、KPMG、Siemens や ZF グループといったグローバル企業が Board を導入しています。詳細は www.board.com または、www.board.com/jp をご覧ください。

Ends